

研究テーマ 転倒転落アセスメントスコアシートを活用した離床センサー解除項目の検証

病 院 名 医療法人喬成会 花川病院

研 究 者 ○栗橋空良(看護師) 豊澤涼子(看護師) 村田彩華(看護師)

概 要

【研究背景】

転倒転落の対策として、離床センサー(以下センサー)を使用している。センサーは身体拘束と同様の悪影響が考えられ、早期にセンサーを解除することが望ましい。前年度研究で転倒転落アセスメントシート(以下スコアシート)を活用し、9項目中5項目が解除基準になることが示唆された。

【研究目的】

スコアシート5項目がセンサー解除基準として妥当か検証する。

【研究方法】

対象者:A病院に令和3年5月～8月に入院しセンサーを使用した患者53名

調査項目:年齢、性別、疾患、スコアシート5項目

調査方法:センサー設置時から解除の期間に週1回、あるいは外せない時は退院時に評価

分析方法:解除群と非解除群とし、解除群でスコアシートの各項目をマクネマー検定とした。さらに、設置時と解除時あるいは退院時に一度も「NCを押さない・押せない」患者42名を解除群・非解除群としスコアシート4項目をフィッシャーの正確確立検定とした。

倫理的配慮:A病院倫理委員会で承認を得た。

【結果】

53名中解除群39名、非解除群14名で、解除群の解除時のスコアシートの合計点数が有意に改善していた。解除群の設置時と解除時のスコアシート項目比較では「車椅子杖・歩行車を正しく使用できない」「支えがなければ立位が不安定」「靴が正しく履けない」「衣服の着脱に介助が必要」の活動4項目で有意差を認め、「NCを押さない・押せない」の認知項目で有意差は認めなかった。そこで一度も「NCを押さない・押せない」患者42名をスコアシート4項目で比較した所、「車椅子・杖・歩行車を正しく使用できない」「支えがなければ立位不安定」の2項目で有意差を認めた。

【考察】

解除群はスコアシートの合計点数とスコアシート活動4項目で有意差を認め前年度研究と同様にセンサー解除の項目として妥当であることが示唆された。しかし前年度研究で有意差を認めた認知項目「NCを押さない・押せない」は有意差を認めなかった。しかし一般的にセンサー設置時の判断基準として「NCを押さない・押せない」としているが、28名が押せないまま解除となっていて、NCを押すことができなくても、立位が安定し、車椅子や歩行車が正しく使用できることや設置場所を検討することでセンサー解除が可能となることが示唆された。

【結論】

解除群はスコアシートの合計点数の改善、「車椅子杖・歩行車を正しく使用できない」「支えがなければ立位が不安定」「靴が正しく履けない」「衣服の着脱に介助が必要」の活動4項目がセンサー解除項目として妥当であること、「NCを押さない、押せない」状況でも「車椅子・杖・歩行車が正しく使えない」「支えがなければ立位が不安定」が改善するとセンサー解除になる可能性が示唆された。

【引用参考文献】

- 1) 高間聖恵他:回復期リハビリテーション病棟における転倒転落アセスメントシート項目の検討. 日本看護研究学会雑誌, 42(3)421 2019
- 2) 高間聖恵他:回復期リハ病棟における転倒転落アセスメントシートの開発と妥当性の検証. 回復期リハビリテーション病棟協会研究発表会 2021. 3
- 3) 田原裕希他:離床センサーを使用している患者の苦痛. 看護理工. 8:36～46 2020
- 4) 村田彩華他:転倒転落アセスメントスコアシートを活用した離床センサー解除項目の明確化. 日本看護研究学会雑誌, 44(3)410 2021